

社団法人相模原青年会議所 2012年度理事長所信（案）

森 正雄

「私たちの輝きをまちの輝きへ」 ～笑顔あふれる持続可能な社会を創造しよう～

【はじめに】

私たちは今の社会をよりよいものにして次の世代に引き継ぐ責任があります。しかし現在の日本は、政治の混迷、増加し続ける国の債務、先の見えない社会保障の問題などを抱え、次の世代のために社会をよりよいものにして引き継いでいくという、持続可能な社会とはほど遠いものです。先人たちのたゆまぬ努力により作り上げてきたこの国は、近現代において戦争により多くの犠牲を払いながらも苦難を乗り越え、経済大国と言われるほど経済成長を遂げ、現在に至っています。一方で個人主義における自由の意味を誤解し、自分さえよければいいという利己的な考え方が増加し、相手のことを考えて行動する利他の精神が薄れてきました。今さえよければいい、自分さえよければいいという思想ではなく、他人のために尽くし、次の世代のことを考えて行動することにより、感謝が生まれ、笑顔があふれます。

相模原のリーダーとなるべくまちづくり運動を展開している私たちは、小さな気付きから協力者が増え、共に活動し、社会に大きなうねりを創ることができます。積極的な活動から私たちが輝くことにより、まちの輝きを創造します。まちが輝けば国が輝き、そこに住む人々が輝きます。輝きの連鎖を創り、明るい豊かな社会の実現のため、笑顔あふれる持続可能な社会の創造を目指し、相模原の将来のために行動してまいります。

【まちの輝きを創造する】

社会の主役は市民一人ひとりです。まちを構成しているのはひとであり、そこに住む人々が積極的にまちづくりに関わることにより、その活動の中から社会の役に立つという精神を身に付けることができ、その結果地域のコミュニティへの参加意欲がより強くなります。自分たちのまちは自分たちで創るという市民の意識変革を促し、市民一人ひとりが自分たちの住むまち、相模原に誇りを持ち、愛郷心を育むことが大切です。

相模原市は1954年の市制施行以来、毎年人口が増加し、当時約8万人であった人口は2006年、2007年の市町村合併を経て、現在は70万人を超える、人口規模では全国で18番目の市となりました。市制施行20周年を記念して1974年から始まった相模原市民桜まつりは、現在では2日間で延べ40万人以上の来場者数があります。市民の相模原への関心を高めるため、参加するだけでなく、さらに積極的な参画を促すお祭りとする事ができれば、そこに住む市民の活気となります。そして市民が相模原に関心や誇りを持ち、愛郷心を育むことを目指し、相模原市外にも相模原を発信するため、市民参加型の事業を構築、協働してまいります。

相模原市は政令指定都市に移行し、行政区が3区となり、区ごとの特性を活かしたまちづくりを推進しております。地域のことを地域で考えるためには、市民意見の合意形成が欠かせません。2008年から取り組んできた市民討議会は、2011年に相模原市との共催で、南区において初めて住民基本台帳を使用した無作為抽出による方法により実施しました。パブリックコメントやアンケートなど、

市民の声を聞く手段はいくつかありますが、市民が積極的にまちづくりに関わっていけるよう、市民の意識変革を促すため、無作為抽出による市民参加のかたち「市民討議会」の開催を提案、協働してまいります。

地域には多くの団体がその目的達成のために活動しております。お互いの団体を理解し合い、しっかりと連携することにより、まちづくりに関して相乗効果を生み出すことができます。行政や市内の団体と情報を共有できる体制を作ることができれば、よりよいまちづくりを行うことができます。相模原のため、次の世代のために、行政や市内団体と連携し、多くの市民を巻き込んで活動していきます。

そしてシティーセールスはまちの輝きを創造するために欠かせません。相模原市は市域の約6割を占める森林や、水資源などの豊かな自然と、首都圏と隣接する多様な都市機能が共生しており、独自の進化をするまちとなる可能性を持っています。私たち相模原青年会議所は、一昨年、昨年と、このような相模原市の特色を相模原市外へ発信する事業としてトレイルランニングを実施しました。地域の特性を生かし、豊かな自然を感じることができる事業を実施することにより、市外からは多くの参加者が、市内では多くの市民が関わり、相模原の持つ豊かな自然、地域の魅力を相模原市外にも発信することにより、このまちの輝きを創造します。

【ひとの輝きを創造する】

青年会議所は「社会の縮図」にたとえられることがあります。相模原青年会議所の課題はこのまちの課題でもあると思います。そして青年会議所活動は、「人生の縮図」とたとえることもできます。人生は魂を磨く旅であり、青年会議所活動も魂を磨く活動であります。私自身、青年会議所活動を通じて、多くの事業、仲間との活動により成長を肌で感じることができました。青年会議所活動を通じて魂を磨き、卒業するまでにその人間力を高めることができれば、より豊かな人生を歩むことができると信じます。

青年会議所運動を広く、早く市民に伝えていき、まちづくり活動を行うには多くの仲間と賛同者が必要です。私たちの活動を理解いただき、地元企業や市民の賛助会員の拡大を行い、過去を検証しつつ、LOMを活性化するため、そして会員拡大活動は青年会議所運動そのものであるという意識の下、LOM全体で会員拡大活動を行うという強い意志をメンバーに伝えていきます。前年よりも本年、本年よりも翌年、仲間が増え続ける拡大手法を検討し、毎年30%拡大ができる体制をつくりたい。

入会時はいろんな思いを持っておりますが、新入会員に何も伝えなければ活動は消極的なものになってしまう可能性があります。私たちは青年会議所活動に対して、ある人はボランティア活動のため、ある人は自己研鑽のため、ある人は人脈作りのためなど、様々な思いで取り組んでいます。様々な思いを持っている中で、心を一つにして活動するには議論は欠かせません。仲間を増やし、仲間をつくる事業の構築、実施を通じて、何の目的でこの事業を行うのか、誰のためにこの事業を行うのか、しっかりと考え、しっかりと議論していくことの大切さを伝えていきます。

そして活動の趣旨を理解し、活動に興味を持つには、仲間との絆を育み、活動の早期理解が必要です。「鉄は熱いうちに打て」ということわざがあります。入会当初からの積極的な参画を促すため、新入会員がしっかりと青年会議所運動とは何かを知り、青年会議所とはどういう組織なのか、青年会議所で何ができるのか、青年会議所で何をしたらいいかを学ぶ機会を創ります。そして磨き上げた魂が卒業を迎える時、その思いを引き継ぎ、次代につなぐ必要があります。青年会議所における縦の軸と横の軸

としっかりとつなぎ、仲間との友情と絆を育む事業を行います。

【この国に、このまちに希望の光を照らそう】

2011年3月11日、東日本大震災により日本は歴史の大きな転換点に直面したと感じています。昨日までの平和がある日突然破壊される。そんな現実を私たちは目の当たりにしました。震災からの復興には地域経済を活性化する必要があり、来るべき災害への対策をするには事前の備えをすることがあります。そしてこのような中、社会が転換し、困難な時だからこそ、次の世代のことを考え、他人のために尽くす人間力や道徳心が必要です。

地域経済がしっかりしているからこそ私たちは活動することができます。まちが元気になります。震災からの復興支援も、まちが元気だからこそ行うことができます。このまちの経済をよくするのは私たちしかいないという思いで、青年経済人として、相模原の持つ可能性を求め、このまちの経済を活性化するにはどうしたらよいか、相模原から活力を発信していきます。

災害対策について、最も効果的な対策を立案、実施するため、災害に備えて民間ができること、あるいは民間が備えた方が効率的なことなど、民間と行政が互いに連携を取っていく方法を検討します。特に災害発生後行政機能が立ち上がるまで3日間程度かかるとされ、最初の3日間の活動が重要とされています。今後首都圏直下型地震や東海地震の発生する可能性は高く、備えと初期対応について、より広い連携が取れることを目指して市民や行政に発信し、私たちの災害マニュアルについても見直します。

社会を大きく転換するためには、目標を示し行動するリーダーの存在が欠かせません。その中でもリーダーは高い道徳心を身につけている必要があります。かつてアインシュタイン博士は「日本人の素晴らしさは、きちんとした躰や心の優しさにある」と語りました。武家社会の中で生まれ、一般市民に至るまで浸透した日本人固有の道徳心や規範のひとつである武士道精神という高い精神性は、世界で高く評価されておりました。しかしながら私たちは今、利他を重んじる武士道精神を過去の遺物として忘れ去ろうとしています。この武士道精神の骨格は、五常の徳である【仁（仁徳・無償の愛）、義（義務・義理）、礼（礼儀・礼法）、智（知識・見識・胆識）、信（誠・信用・信頼）】と、加えて【勇（勇気・忍耐）、名誉、忠義】からなり、日本人の道徳の根幹のひとつとなっております。混迷の時代だからこそ人間力を高め、私たちはどのように行動すべきか考える必要があります。

リーダーが高い人間力を持っていれば、人々が進むべき方向を指し示すことができ、強い意志を持って継続的に人々を正しい目標へ向かって導くことができると信じます。一人ひとりが希望の輝きとなり、家庭でも、職場でも、そして地域でも高い道徳心を持ったリーダーとして活動するため、このまちに希望の光を照らす人材を育成します。

【未来の輝きのために】

社会環境は日々変化しております。社会環境がどのように変化しても、現在の世代から次の世代へ社会を引き継いでいくという構図は変わりません。今の社会をよりよいものにし、子どもたちの笑顔があふれる未来の輝きを創造するため、次世代の育成、自然環境及び家族環境について考え、行動する必要があります。

子どもたちを取り巻く環境は、社会環境の変化、家庭の教育力の低下、児童虐待やモンスターペアレ

ントをはじめとした社会問題など、子どもたちの健全な成長を妨げる多くの問題を抱えております。子どもたちの夢を大切に、それを実現出来る社会とするため、次世代を育成する環境をつくるために、子どもたちが関わる地域社会、家庭及び学校の役割を改めて考え、事業を構築してまいります。

夢を持つこと、自分で目標を立てることができるようになるには、子どもたちには様々な経験や知識が必要です。個人として強くなるための自助の意欲、支え合いの中から生まれる共助の意欲を育て、一人ひとりが輝きを持つために、周囲との関係を実感し、自立できる心を育みます。そして自分と言う唯一の存在を自覚し、自分は必要とされている、ひとの役に立てているという自己肯定感を育むことを通じて、子どもたちに夢を持つことの大切さを伝えていきます。

一度失った自然環境を取り戻すことはできません。これ以上の環境破壊は次の世代に引き継ぐものではありません。私たち相模原青年会議所は、相模原市民桜まつりでのゴミ分別事業を通じて市民に環境の大切さを伝え、行動を起こしてまいりました。資源循環に対する取り組みから、持続可能なまちづくりを発信し、環境を守ることの大切さを伝え、市民が行動を起こすきっかけを作り、環境にやさしいまちづくりを目指します。

家族環境は、生活の中で輝く未来を創造するために最も重要です。また、私たちが青年会議所活動をするうえで、メンバー家族の理解を得ることは欠かせません。よりよい家族環境をつくるため、家族の絆を考え、家族にどのような道徳を身に付け、行動してほしいか伝える方法を学びます。家族から青年会議所活動の理解を得て、メンバーが青年会議所でしっかりと学び、それを家庭や会社、地域に還元することにより、未来の希望となります。

【公の利益となるために】

2013年11月で法人格移行の期限が到来します。公益法人格取得後も各種書類の手続きが必要になります。公益認定を維持するためには公益目的事業費率が全支出の50%以上であることなどの要件があります。多くの市民の利益に資する事業を構築できるよう、責任ある団体として法的整備を進めていきます。

組織運営がしっかりしていなければ、まちづくり運動は円滑に遂行することはできません。目的の達成のため、内部組織の改善を常に心がけ、メンバー一人ひとりが目的を共有して青年会議所運動が展開できるよう、その活動をサポートするための運営を行います。

青年会議所運動を広く市民に伝えるためには、認知度を上げることは不可欠です。私たちの活動を広く周知するため、より積極的な広報活動を行い、市民に青年会議所運動を伝え、市民が青年会議所運動をどのように思っているか知ることにより、公の利益を追求し、私たちの運動に活かします。また、青年会議所運動を広報するためには全会員が青年会議所をしっかりと理解する必要があります。積極的な広報活動はメンバーの青年会議所に対する理解促進にもつながり、より多くの市民に伝えることができます。そのための広報の取り組みについて実践していきます。

2012年は韓国の（社）釜山海雲台青年会議所との交流30周年になります。これまでの交流を振り返り、先輩諸氏の偉大なる活動とお互いの青年会議所活動をしっかりと理解し合い、今後のさらなる友好関係と信頼関係を築くための事業を行ってまいります。

そして日本や世界における青年会議所運動から、地域社会の健全な発展のために必要なものは何かを学び、私たちの地域に活かすため、公益社団法人である日本青年会議所、関東地区協議会、神奈川ブ

ロック協議会の事業をはじめとする青年会議所の各種事業に積極的に参加、参画し、活動の理解を深めていきます。

【結びに】

ひとが変わればまちが変わります。まちが変われば国が変わります。変化の連鎖を創ることができるのが青年会議所運動です。私たちが輝くことによって市民の無関心を関心に変えるきっかけとなり、市民一体となってこのまちをよりよいものにするための運動を展開してまいります。相模原で活動する私たちは、将来のあるべき姿を地域から発信し、日本全国の多くの仲間と共にこの国を明るい豊かな社会へ導きます。

そして2015年に相模原青年会議所は創立50周年を迎えます。相模原を発信するため、相模原青年会議所のブランディングのため、相模原の輝きを創造するためにはどのような取り組みが必要か、しっかりと考え、しっかりと議論し、そのための方法として、日本青年会議所、関東地区協議会、神奈川ブロック協議会の大会誘致なども含めて検討してまいります。

最後に、2012年度は、利他の精神により今の社会をより良いものにして次の世代に引き継いでいく、笑顔あふれる持続可能な社会の創造を目指し、明るい豊かな社会の実現のため相模原青年会議所会員全員が一丸となって一生懸命取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。